
北の魔女のキタは言った。

ヘッドホン侍s

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

北の魔女のキタは言った。

【Nコード】

N5827Z

【作者名】

ヘッドホン侍s

【あらすじ】

キタの方に住んでいる魔女、キタと申します。あくまでフィクションとして、わたしの悩みを打ち明けていきたいと思います。あくまでもフィクションとして。

自己紹介

やあ、みなさん。性別はメス。名前はキタ。地球でいうと北、日本でいうと北の方に分布している。

はっきり言おう。

わたしは、魔女だ。

所謂、魔女というやつは、何という定義自体曖昧であろうが、そういう奴だ。

わたし自身、自分が何者かなんて分からない。

皆さんだってそうだろう？自分は人間だと周りに言われているから、そう思っているだけで、ホントのところは分からない。

ある日、突然、思いもよらず妙な能力を発揮するかもしれないぞ。こつこつこのを、昨今では『中二病』と言っらしいな。

でもわたしがそうだったんだ。世の中、何が起こるか分かったもんじゃないぞ。期待しな、中二病患者たち。

そして、はっきり言って難だが、わたしは人間が大好きだ。

おおよそ、魔女は人間嫌いとか言う定説があるが、……期待を裏切って申し訳ない。

それどころか、わたしは今人間を愛している。

申し訳ないな。

しかも、それも、草食系男子とかいうやつで、しこたま可愛い。

ひとり悶絶するもなんだ。

時代は、Internet。

しかし、某つぶやきなどというものは、わたしが中二病患者として痛い痛いしてしまっ。

ゆえ、そっだ。フィクションとして、載せてしまえという魂胆で、この小説もどきを書いてみることにした。

はじめる」。

で、その草食系男子との交流なんだが、アフロ之助が道に迷ったことから始まった。

あ、アフロ之助というのは、わたしに遣えている超下級悪魔だ。行使は、紙屑ひとつで請け負ってくれる。

最近は何んでも付箋紙にハマっているらしい。細さと薄さとパリパリ感、微妙にかかったノリが絶妙なハーモニを奏でていて、癖になる…とか言っていた。

って、そんなことはどうでもよくて、草食系男子についてだったな。

草食系男子、えーと…これはフィクションとっていいから、本名でいいよな。

草食系男子、清水優しみずゆうは写真部部長の県立高校に通う高校二年生である。

少し前の夏のある日。

「散歩行ってくるである。」

と出て行ったアイツがお昼ご飯に帰ってこないの、心配になつて散歩コースの山に行つてみることにした。

因みにアフロ之助は、ごつつい方向音痴で、かつ腹が減ると動けなくなるたちの悪い質をもっている。

そういうわけで、山の中をだいぶ、散策することになったわたしだったが、…普段の運動不足が、重石となつて、わたしすら力尽きそうになった。

それが、途中の東屋だった。

そこに、干からびかけたアフロ之助を保護した、清水優がいたのだ。

「これ君のペット？」

「ん、ああ……」

そこまで言つてわたしは意識を失つた。

次に、わたしが目を覚ましたときの記憶は温もりからはじまる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5827z/>

北の魔女のキタは言った。

2011年12月20日21時52分発行